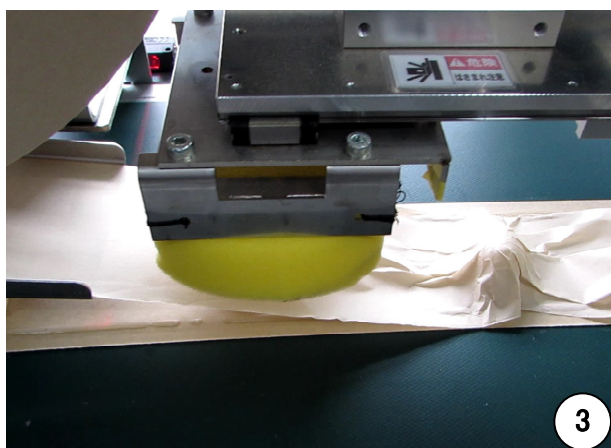


## テーピングに適した種らっきょうサイズの説明

写真やスケッチで、安定したテーピングに適した種らっきょうの形状を説明します。

作業者は7cmピッチ程度で種らっきょうをテープに配置①すれば、紙送りが行われ、下側の紙と、上側から供給される、柔軟な紙の間に種らっきょうは挟まれ②、以降の③工程で、上部からスポンジで押えられる事で、袋状の閉鎖空間が糊で作られるのが、基本動作です。④図に示す平面図は、異なった種らっきょうで袋形成の問題点を説明します。

安定したテーピングには、15mm未満の直径で、40mm長さ程度の球根部を持つ小型の種らっきょうが適しています。小さいピッチで植え付けたり、2年間生育したものの利用等、種らっきょうの栽培についても検討が好ましいと思います。



70mm幅のテープは、紙製造の原反から切り出す効率が良く80mm幅に比べて大きなコストメリットがあります。  
糊の紙に対する塗布位置は図のように、左右が3.5mm幅でセンターが5mm幅となっている事、左右がセンターから24mm外側である配置関係により、理想的には15mm未満直径の長さ40mm未満の種らっきょうが、安定したテーピングに適しています。

70mmのテープ幅から突起は不可  
(リール時にせん断で脱落)

種球の太部分がのリライン上では、トンネルが出来て脱落  
(両側が絞ってノリ着が必要)  
先端の細い部分は絞られた接着の可能性はあるが、確実性は低い

このらっきょうは、40mmカットの為、先端部と根部分ともノリ着が行われ安定。  
ただし、外径が20mmを超えて大きい場合は、形状によって不安定な場合もある。

4